

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 武市 和彦 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンポール中野 504 号
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
<http://www.nihonkouren.jp>

発行：隔月1回
2022年2月1日
No.351



12.26 新宿アルタ前宣伝行動(東京高齢期運動連絡会【速報】より)

第35回日本高齢者大会 in 京都大会開催を決定 2022年11月23日～24日

第35回日本高齢者大会 in 京都中央実行委員会が2021年12月18日に開催され、大会開催の意義・目的、大会参加目標(2日間延べ5,000名)、大会日程(2022年11月23日～24日)、大会会場(全体会はロームシアター京都メインホール)、実行委員会体制、大会までの日程、など確認しました。

実行委員会では増田剛全日本民医連会長、34回長野大会現地実行委員長の山口光昭さん、京都大会現地代表の田中浅雄さんよりあんさつをいただきました。

大会開催の意義・目的

(1) 第一回日本高齢者大会が京都で開催されてから35回目の大会となります。今回の

大会を記念大会として位置づけで開催します。ひとりぼっちの高齢者をなくすのスローガン実現のため、政府が進める全世代型社会保障政策でなく、高齢者のいのち、健康、人権が守られる社会実現のための取り組みをすすめる大会とします。

今回、日本高齢者大会としては第35回大会となり、1987年第一回大会を京都で開催してから35回目となります。35回目の記念大会として開催します。大会準備の中でこれまでの高齢者大会のまとめの記念集作成に中央実行委員会としてとりくみます。

(2) 「憲法を暮らしの中」を活動のスローガンにしてきた京都の闘いから学び、9条改定の動きを止める大会とします。

今回実施された衆議院選挙の結果、日本国憲法改定が進められようとしています。大会は2022年4月の京都府知事選挙、7月実施の参議院選挙後に開催されます。参議院選挙で、改憲勢力との闘いに勝利し、大会を迎えられるようにします。かつて京都は蜷川府政の中で、「憲法を暮らしの中に」とのスローガンの下、民主府政を発展させてきた歴史を持っています。またそれを支えてきた地域での運動があります。それらの運動から大会参加者が学ぶことは重要な意義があります。

(3) 京都の歴史と伝統から学ぶ大会とします

京都の歴史や文化にも直接触れる機会をもつことは参加者にとっても意義あることだと考えます。京都の歴史から学ぶ取り組みを企画します。

実行委員長 増田剛全日本民医連会長の挨拶

このたび実行委員長の大任を仰せつかりました全日本民主医療機関連合会の会長を務めております増田剛と申します。経験不足ゆえ皆様の指導を仰ぐことも多々あると思っておりますがどうかよろしくお願い申し上げます。さて、皆さん新型コロナウイルス感染症のパンデミックは全世界に深刻な影響を及ぼしました。日本においては安倍・菅路線の中で痛めつけられた社会保障の脆弱性が露呈し医療崩壊が現実化しました。東京五輪を強行開催した8月には最悪の第5波の感染爆発となり国民皆保険を誇るこの国で指定感染症に罹患し、明確な治療希望を表明しているにもかかわらず、医療に届かず、無念の自宅・宿泊所死亡となった方が8月1か月で250人にも及びました。あつてはならないことが起きました。コロナ禍においては相対的に弱い立場にある人々に矛盾が集中的に表れました。生業を奪われた多くの労働者が明日の生活もままならないような窮状に陥りました。病床ひっ迫、医療機器不足から、高齢というだけの理由で適切な医療を受けられないという事態も実際に発生しました。非正規労働者、高齢者、女性、障害者、子どもなど

(4) 日本高齢者人権宣言を国民の中に広げる大会とします。また、世界的な視野での高齢者の人権を守る運動を学べる大会とします。

日本高齢期運動連絡会は、2020年総会で「日本高齢者人権宣言案」を決定し、2020年総会を確認できるよう議論をすすめています。大会は「日本高齢者人権宣言」を広く国民に呼びかけるアピールできる大会とします。高齢期運動も結成以来35年、運動の飛躍が求められています。また、世界的な視点での高齢者の人権を守る活動について学ぶため、ヨーロッパ高齢者運動との交流ができる企画を行います。



政治の手が届かないままに放置された困難状況を曖昧にしたままではこの国の未来を展望することはできません。

毎年日本高齢者大会を結節点とした現在の運動は、私が医学部を卒業して民医連に参加した1987年に全国高齢者大会という名称で開始されました。かつて老人医療費無料化を実現した輝かしい高齢者運動の歴史を引き継いで第10回の愛知大会からは名称を現在の日本高齢者大会に改称し現在に至っています。一貫して高齢者を孤立させないこと、高齢者を大切にす政治を実現すること、核廃絶と平和な社会を後世に残すことなどを中心的なテーマに掲げてその内容を

充実させてきたと認識しています。そして日本高齢期運動連絡会の2020年総会では日本高齢者人権宣言案を決定し、現在2022年総会での確定にむけて全国討議を行っている最中です。この草案に書いてある内容は今後の日本の、そして世界の高齢者運動が依って立つ視点が網羅されており、人権が尊重される社会の構築に大きく寄与することは間違いありません。35回京都大会はそのことを広く世の中に訴えかけるという点で大

変重要な意義をもつ大会になると思います。コロナ禍で痛めつけられた国民生活を復興させるうえでの大きなエネルギーとなると確認しています。京都大会成功にむけて実行委員会一丸となって奮闘しなければなりません。微力ながら私もその責を全うできるよう頑張らせていただきます。

(当日はメッセージビデオであいさつをいただきました)

「第35回日本高齢者大会 in 京都」 現地実行委員会結成 第1回実行委員会開く

第35回日本高齢者大会 in 京都 京都実行委員会

1月13日(木)「第35回日本高齢者大会 in 京都」第1回実行委員会が開かれました。中央実行委員会、近畿ブロックを含め23人が出席し大会成功にむけて議論し①大会の意義、②大会日程・会場、③役員体制を確認しました。

京都での大会開催意義について
(中央実行委員会の報告を参照)

(1) 大会開催概要

1、大会日程

○ 2022年11月23日(木祝)

午後1時30分～16時30分

(学習講座、分科会、分散会、移動分科会、交流会)

○ 2022年11月24日(金)

午前10時～12時30分 全体集会

2、会場

○ 11月23日(分科会等)=未定・・・主要会場として、大学を中心に(3月確定)公的・民間の会場を検討

○ 23日(夜の交流会)=教文センターホール、一階会議室・・・仮確保

○ 11月24日(全体集会)=ロームシアター京都メインホール
(2,000人収容)

3、大会参加者目標、延べ5,000人とする。但しリモート視聴含む。

○全国からの参加を実現する。

○近畿ブロックからの参加目標1,500人
(内訳京都500人以上、大阪400人、兵庫200人、人奈良100人、和歌山100人、滋賀200人)

○その他、賛同団体、個人等

(2) 大会スローガンとサブスローガン

○メーンスローガン

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」

○サブスローガン(案)

「高齢者も若者も手をつなぎ いのち・暮らしを守る政治を！」～憲法を生かし「高齢者人権宣言」で豊かに！

(3) 大会参加費

一人5,000円、一日2,500円

リモート視聴 1,000円

(4) 宿泊、参加方法

各都道府県で取り組む

(5) 大会実行委員会

○中央実行委員会

実行委員長 増田 剛(全日本民医連会長)
事務局長 武市和彦(日本高事務局長)
事務局次長 畑中久明(日本高事務局次長)
菅谷正見(東京高連事務局長)
加藤益雄(全日本年金者組合副委員長)
佐藤長世(神奈川高連)
田中英男(茨城高連)
寺崎由郎(三重高連)
山口光昭(長野高連)

○京都実行委員会

代表委員 田中浅雄 (高退協＝国鉄退職者会)
山本和夫 (年金者組合)

平井 勝 (府退職者会)
長谷川英俊 (京退協)
事務局長 藤原克東(京都高運連事務局長)
事務局 山崎佳代子(府退職者会)
行松美津子(民医連退職者会)
高橋達也(京都市退職者会)
高梨輝子(京都民医連)
東 静樹(退職教員の会)
吉岡 勝(京都総評)
中村 崇(京都高運連)
杉山 勉 (高齢者大学)

※他にも広く要請していく

全体集会の講演や学習講座、分科会、移動分科会、交流会などについて提案され、今後議論を重ねて決定していきます。

【アクセス】



- ・京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車、2番出口から徒歩8分
- ・京阪電車「神宮丸太町」駅下車、2番出口から徒歩約13分
- ・京阪電車「三条」駅下車。「三条京阪前」バス停から市バス5系統「岡崎美術館・平安神宮前」下車徒歩

意見・提案を反映させ「二次草案」を提案 日本高齢者人権宣言起草委員会報告

日本高齢者人権宣言起草委員会(以下起草委員会)は、2021年11月12日(金曜)10時から12時までオンライン会議で開催されました。出席者は、座長 井上英夫、事務局長 武市和彦、委員 鐘ヶ江正志、高田清恵、鈴木静、馬場康彰、小嶋満彦、寺崎由郎の8名。長友薫輝、加藤益雄委員は、都合で参加できませんでした。

最初に武市事務局長から、「第一次草案」の全国での討議状況報告とブックレット、パンフレットの普及状況について報告されました。

コロナパンデミックの中でも創意工夫した読み合わせや集合学習会など持たれた事を評価しました。しかし日高連の多くの県連でのとりくみはこれからという状況もあり、引き続き学習会を持っていくことが必要であること、さらに、「宣言」を確定するためには各県連として「宣言」の取り組みや意見などをだしてほしいという意見も出されました。

委員会は、第一次草案の発表から1年半の学習会や高齢者大会等で出されたたくさんの意見や提案、感想文などを事前に読み意見や提案の背景や意味など活発に討議され、修正の可否など厳密に検討し、現時点での対応として文書や言葉など補強や修正し「二次草案」を作ることにしました。草案に反映しきれない内容や言葉の意味や考え方、高齢者の人権をめぐる情勢などを包括した解説的な井上英夫座長の文書を発行することを確認し作業分担を決め11月末までに完成させ、ブックレットとして発行することにしました。

1. 決めたこと

(1)「日本高齢者人権宣言第二次草案」をつくる作業分担は、「宣言」前文を鈴木静委員、「高齢者に保障される人権」を高田清恵委員。11月30日に委員の意見集約し「二次草案」文書を確定する。

(2)「二次草案」議論のためにテーマ「日本高齢者人権宣言」の意義と課題＝日本高齢者人権宣言第二次草案議論のため＝

起草委員会座長 井上 英夫

(3)ブックレットN06を12月中旬発行

掲載内容は、上記(1)(2)と資料、2021年5月日本高齢期運動連絡会総会での琉球大高田清恵先生の記念講演を加筆したテーマ「国連の高齢者人権条約制定に向けた取組みと日本の高齢者の人権」

2. 今後のとりくみ

「第二次草案」の学習をさらに広げ、意見や提案などたくさん出してもらい集約し、2022年4月に起草委員会を開催し必要があれば「第三次草案」を作成し5月の日本高齢期運動連絡会総会に提案する。

この案を総会で決定するかどうかは日高連代表委員会で検討する。

報告の補足

起草委員会が出された意見・提案の検討状況(武市メモをもとに作成)

※ページは人権宣言パンフ

※第二次草案は、ここにはない部分の修正もあります

前文については鈴木先生を中心に議論

①P4 9行目 公助を基本→自助・共助・公助を基本とする

理由 公助でなく自助でないかの質問が多い箇所

②P3 右 12行 アナン事務総長の言葉についてはアナン個人の意見にとらえられないような表現に改めることを確認。鈴木先生修正担当

③P3 8行目に・・・臨調路線・・・提案文書の挿入については、主旨は理解できるが文書のバランスを考えると量が多くなりすぎる。P4の臨調行革の部分についてもいれなくてもよいのではないかとの意見が出された。これについても鈴木先生に検討していただくことになった。※座長文書で

本文について高田先生を中心に議論

④基本原理(P5頁) 高齢者に保障される人権、基本原理上段から5行目「自己決定に基づいて生活を送ること」は「自己決定に基づいて生活が送れること」に変更→関連する文書と語尾を合わせるために提案の内容を採用する

⑤自律的で独立した生活を送る権利(P6頁) 4行目の、「所得が保障されることを通

じて」の「所得」は、「所得」が正解なのですか →現在国も収入を使っているので「収入」とすることを確認

- ⑥自由に考え、信仰する権利 (P7 頁) 2 行目の、「宗教団体などが高齢者の心身や財産を搾取することは許されません」についてです。財産の搾取は、宗教団体でなくても許されないと思いますが、ここで、あえて宗教団体という団体名を挙げている理由は何でしょうか。→「宗教団体などが高齢者の心身や財産を取得することは許されません」は削除することを確認した。
- ⑦財産権 (P9 頁) 8 行目「尊厳ある生活にとって必要な財産は、けっして剥奪されはなりません」とあるのを、「尊厳ある生活にとって必要な財産を、剥奪することは許されません。」と修正できないか→意見どおりにすることを確認。

⑧6 項目目 品位を傷つける扱いを受けない権利があります。人格・品位をして人権を入れたらどうか。→品位の中に人権も含まれているが入れることによってわかりやすくなるので入れることにした。・・・扱い、**人格や品位**・・・

⑨パンフレット 6 頁 3 項目目 独立して生活を独立した尊厳ある生活にしてはどうか→2 項目目で尊厳を取り上げているので取り入れないことにした。

⑩パンフレット 7 頁 10 項目目 合理的理由なく、社会保障の水準を引き下げるを、理不尽な社会保障の水準としてはどうか→合理的な理由がないので入れないことにした

⑪パンフレット 9 頁 17 項目目 住居でなくすまいがいいのではないかと→上 2 つと 3 つ目の表現のみ、**住まい**とすることにした。

(文責 委員会事務局)

コロナ禍でもできること

まちづくり~いまやっていること報告交流会=東京

1 月 19 日都内で「第 3 1 回ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」の第 1 分科会「高齢になっても安心して住み続けられるまちづくり」が開催され、オンライン参加含めて 46 名が参加しました。

分科会は、冒頭に東京高連の菅谷事務局長と吉岡副会長から基調報告があり、その後コロナ禍でも活動が続いている 5 つの報告があり、質疑が活発に行われ刺激的で学びの多いつどいとなりました。

報告演題は次の通りです。

- ①フードバンクのとりくみ(東京保健生協・練馬区)②コロナ下でもスマホ教室でつながる活動(東京ほくと医療生協・赤羽)③地域との信頼関係が深まったワクチン接種の活動(代々木健康友の会)④2 人に一人以上が健康状態に変化、人と話せる場が欲しい~コロナ禍会員アンケート結果から~(足立健康友の会)※足立区⑤宮桃町会の見守り支えあい(中野区宮桃町会長)でした。

フードバンクのとりくみは、他生協のとりく

みから自分たちも何かできることはないかとのおもいから、コロナ禍でリモート会議打合せし、購買生協や福祉事務所・地域包括センターや社会福祉協議会などと連携して、「困ったときはお互い様」を合言葉にしてはじめた。大泉生協病院の感染対策室の指導で感染対策をおこない、21 年 3 月から始め最初参加者 31 名から最近では 100 名を超えてきました。

スマホ教室は、「若い人のようにスマホで楽しみたいけど・・・」「使いたいけどどこで聞けばいいのかわからない」などの声から始めました。指導のサポーターは、知り合いの娘さん始めて見ると「知りたいことが人それぞれ」などあり軌道修正し「LINE ができるようになることを目標に!」(画像参照)にしました。その後医療生協の支部・理事会でも LINE グループができ情報交換近況報告などに活用しています。赤羽東支部では「ホットカフェ」で「スマホ相談会」を続けています。コロナ禍でも家にいながらみんなと話ができるようになったと好評です。

『みんなのスマホ教室』の軌道修正
▶LINEができるようになることを目標に！

【その理由】

- ・すべての世代で利用者が多い
- ・相互にやりとりができる会話に近い
- ・1対1でもグループでもOK
- ・トークと通話が無料



ワクチン接種は、友の会として「ワクチンを届けることを第一義的に」しました。当初接種票が届いたがどうすればよいかわからないとの声に620人の会員に「予約をお手伝いします」の案内を送りました、また「なんでも相談コールセンターも設置」しました。その結果「予約の仕方がわからない」、「パソコンを持っていない」などの相談予約を受け友の会役員や代々木病院広報室のひとが対応した。またワクチン接種会場への送迎もした。代々木病院で接種した人が、病院の対応がよかったので家族も受けたなども生まれました。

会員アンケートは、コロナ禍で会員の困りごと、健康状態、受診状況、友の会活動への意見要望のアンケートを実施、会員 5000 人のうち 400 人から回答があった。

コロナ禍での困りごとでは、最多は感染がいつまで続くか、次が親しいひと、知人、友人と

会えない、3 位は感染しないか心配でした。また一言欄には「母子家庭なので、娘の失業は家庭に負担が大きい」「夫が入院中だが面会できず心配」等々でした。また 70 才以上で一人暮らし二人暮らしは 81%に今後の活動の課題があることもわかりました。

町会の見守り支えあいは、「中野区地域支えあいの活動の推進に関する条例」に基づき中野区が名簿を作成しプライバシー対策の上公開しています。希望する町会に見守り対象者名簿が渡され見守り支えあいの訪問活動とサロン活動を 9 年続けていましたが、コロナ禍で活動休止していました。ところがその間に対象者が孤独死が起きたので手分けして他の方を訪問したら認知症やフレイルで要介護や入院している人がいることが分かった。感染予防対策の上月 2 回訪問を再開した、訪問を待ち望んで大変喜んでくれた。活動を休まなければ孤独死は防げたかもしれないと後悔の念がつのる。「コロナ禍でも続けるべきだった」との町会長の言葉に深い問題提起を感じた(筆者が)。

東京高連は、東京のつどいを継続していく予定です。(鐘ヶ江正志 記)

感想・高齢者の人権を考え、人権を守る活動が地域で着実に広がっていることを実感しました。



「声をあげよう」アンケートにご協力ありがとうございます。ご意見を一部抜粋して紹介します

- ▶ 一昨年の消費税 10%そして昨年からのコロナ禍。オリンピックどころでなかった 2021 年。生きていくことがしんどくなる日々。いろいろ節約していますが限界です。長生きすることがつらくなる。高齢者にとっては言いようのない寂しさがあります。総理なんとかしてください。(愛知県)
- ▶ 年金は有難く受け取っていますが年金だけでは立ち行かずパート勤めをしています。今の政府の予算の取り方、議員たち

の金使いを見聞きすると「国民の方を気使わない！」ことに腹が立ちます。くたばれ自民党！(山口県)

- ▶ 年金夫婦合算での医療費 2 倍はひどい！保険証は個人にしておきながらこういう時は二人で・・・と都合良いように国民をあしらっている横暴な権力です。(東京)
- ▶ 「人の話を聞くのが得意」という岸田首相！あなたは誰の話を聞いているのですか？アメリカ・財界・大企業、安倍・麻生さんなど党内有力者、日本会議などの

- 声しか聞こえない耳をお持ちのようですね！コロナ禍での困窮者、若者、学生、子育て世代、中小零細企業者、非正規労働者、私たち高齢者など本当に困っている人の声を生かす政治の実現を！野党共闘による政権交代しか希望はないですね。（東京）
- 後期高齢者だけを取り出した保険制度は差別です。ただちに元の制度に戻してください。その上で全国一律の医療制度を築いてください。（福島）
 - “聞く耳を持つ”という公約は国民生活での一人ひとりの暮らしを大事にすることに傾けるもので、富裕層、大企業の声を聞くことではない。新しい資本主義に防衛費迄含めるとは……。もっと貧困で苦しむ人の声を聞いてほしい。（福島）
 - 妻の年金と合わせて何とか日常生活を維持しているが、自家用車の車検や修理、タイヤ交換などの費用、自宅の維持（水回り、暖房器具の修理や交換）に係る費用等々は貯金の取り崩しで賄っている。今後にかかる費用が不安になっている。経済的余裕はなくなっている（福島）
 - 岸田政権になって良かったと言われる政権政策になってほしい。高齢者いじめ、国民いじめは絶対にダメ!!あなたは聞く耳を持っていると自負している。このチラシを聞く耳によ一く聞かせ実行してください。（福島）
 - 高いなあと思いながら健康保険料・税の支払いをしています。毎月お医者さんにお世話になります。持病とは死ぬまでつきあわなくてははいけません。どうでもいいわという気にはなれず、毎月どうしようと思いつながら通っています。（広島）
 - 70 才になり、医療費が一割負担になり、ずいぶん楽になったなと思ったら、75 才から 2 割とは、ひどすぎます。お金の心配なく医療機関を受診できるようにしてほしいです。（広島）
 - 弱い立場の人たちに優しい政治をと望まずにはられません。（広島）
 - 年金は下げられているにもかかわらず、物価は値上がりしてどんどん暮らしにくい今、これで医療費が 2 倍になると病院受診が減って生きずらい。どうにかしてほしい。（三重）
 - 後期高齢者となり保険料は高くなりました。支払いは滞ってはいませんが、1 万円くらい高くなっているように思います。死ぬまで払い続けることが苦痛になりますね。（三重）
 - 軍事費はどんどん上がるのに福祉や医療への費用はどんどん削られています。介護職、看護職の人への給料値上げをぜひ実現してほしいです。コロナでこの 2 年間どれだけがまんしたことか、せめて美味しいものでも食べたいけれど、お金が……。！（三重）
 - 75 歳以上の医療費 2 倍化は「高齢者は医者に行かず早く死ぬ」というのと同じ。こんな冷たい施策はすぐやめなさい。広島の出身者ならまず核兵器禁止条約に真っ先に賛成し世界に範を示すべき。（三重）

<お知らせ>

2.18 75 才以上医療費 2 割化中止求める署名提出集会

時間 2 月 18 日(金) 10:30~12:30

会場 参議院議員会館 101 会議室

内容 学習講演 テーマ「高齢者の負担増を考える」

講師 唐鎌直義先生（佐久大学特任教授）

署名提出集会 各団体訴え 終了後議員要請行動

全国オンライン配信・YouTube 配信

ZOOM ID: 839 7671 7422 パスワード 237909

YouTube <https://youtu.be/l2eKc3xMGvo>